



# みみん

〔題字〕谷川俊太郎さん



せんだい・みやぎNPOセンターニュースレター“みんみん”は、あらゆる組織が社会課題解決をキーワードに出会うきっかけづくりと、活動を発信をすることから、新しい風を起こしていきたいと願っています。



お忙しいなか大町本部事務局にお越し頂いた、株式会社日専連ライフサービスの斎藤恒利さん。

当センターの遊佐がインタビュアーとなり、地域貢献の取り組みなど、じっくりお話をうかがいました。

## 目次

- P2～3 「みんみんインタビュー」  
斎藤恒利様(株式会社日専連ライフサービス  
クレジット営業チーム 上席リーダー)
- P4～6 せんだい・みやぎNPOセンター実施事業のご紹介
- P6…… 推薦図書のご案内、新スタッフ紹介
- P7…… ライブラリレー 特定非営利活動法人イコールネット仙台
- P8…… 新規会員・継続会員、ご寄附、編集後記、お知らせ、連絡先等

# 「クレジットカード事業を通して行う、 社会貢献活動・復興支援活動の取り組み」

今回は、株式会社日専連ライフサービス 営業第一部クレジット営業グループ クレジット営業チーム上席リーダー 斎藤恒利様をゲストにお迎えしました。

当センターとは、サポート資源開発プロジェクトの研究会(2000~2001年実施。企業・協同組合・労働組合など各種団体と提携・協働して、NPOを支えるサポート資源提供システムを共同開発することを目的とした研究会)にご参加いただいたところからお付き合いが始まりました。この研究会で「NPO基金のための日専連カード」の仕組みが開発され、日専連・JCBのお店で使える「日専連NPOカード」ができました。

東日本大震災後の社会貢献活動・復興支援活動への取り組みとまちづくりについて、お話を伺いました。

## ■日専連ライフサービスとは

せんだい・みやぎNPOセンター(以下、せみ):まずは日専連と日専連ライフサービスについて教えてください。

斎藤:協同組合連合会 日本専門店会連盟(以下日専連)とは、全国各都市の小売事業者で組織した協同組合組織の連合体です。私どもの会社は、以前は協同組合日専連仙台という協同組合でした。協同組合を中心に、様々なお店でご利用いただけるクレジットカード事業が始まりました。2000年、協同組合日専連仙台の主たる経済事業が株式会社日専連ライフサービスに移行されました。日専連仙台には組合事業が残っています。組合員のための勉強会、具体的には経営者教育、社員教育、経営指導、情報提供や懇親会などを行っています。また専門店・商店の集まりですから、これまで消費税反対運動なども行ってきました。

## ■クレジットカード事業と社会貢献

せみ:クレジットカード部門が法人化されたということですね。続いて社会貢献活動についてお聞かせください。

斎藤:協同組合で始まった会社ですから、地域に貢献する会社になりたいというところから始まりました。私どもは地元の地域に密着したカード会社です。事業なので、カードの事業で儲けなければいけません。本業を生かした社会貢献にも取り組んでいます。

例えば「社会貢献カード」です。「SENDAI光のページェントカード」は、ショッピングご利用金額の一部を光のページェント実行委員会に贈呈しています。

「Fukuramuカード」は、震災後に(公財)福島県観光物産交流協会と福島県庁と連携して発行された「社会貢献カード」です。ご利用金額の一部が福島県産品の振興・風評被害払拭に役立てられています。会社の理念や考え方にご理解をいただき、パートナーとして選んでいただいたと思っています。

また、COOPフードバンクの活動も応援しています。フードバン

ク自体は昔からありNPOで取り組んでいるところもありますが、私どもががつなげたのはみやぎ生協です。もともと提携カードを持っていましたので、みやぎ生協から「コープフードバンクをやることになった」と話があり、私どもも何か取り組みないかと検討した結果、やはりカードを活用して、という結論になりました。私どもは決済手段というカードを持っていますので、「このカードで賛助金を募集できます」という仕組みを提供しました。みやぎ生協は提携カードがありますので、「コープトリプルカード」を持っているお客様にフードバンクの活動を理解いただき、その賛助金をカードでお支払することができますよ、と伝えました。カードでお店を潤し活発にしていくのが私どもの事業ですので、社会貢献もカードを使って貢献できることを目指しています。

## ■日専連NPOカード

せみ:もう少し「日専連NPOカード」について教えていただけますか。

斎藤:「日専連NPOカード」も「社会貢献カード」と同様、ご利用金額の一部を拠金の形で戻しています。正直なところ、カードを新たに作る方はここ数年増えていませんし、傾向として会員数も減少しています。カード自体は普通の日専連カードと外見もサービスも同じです。カードを見せるといろいろな割引が受けられるとか、5%オフになったり、プレゼントキャンペーンがあったりと様々な特典がありますので、気軽に利用していただければ良いなというのが正直なところですよ。

NPO法人の皆さんにお勧めは「NPO法人カード」です。新聞代、電気代、電話代、賃料など、法人でのさまざまな料金の支払いには、それぞれ現金払いや銀行口座からの引き落としになっていると思います。その支払いに法人カードを使っていただきたいと思います。公共料金やETC料金のカード払いなどにご利用いただくことによって、利用金額の一部がNPOの拠金になります。

お届けするカードは普通の日専連カードの法人カードで、サービスが制限されている訳ではありません。普通にお使いいただく一方で、ご利用金額の一部がNPOに拠金されるという「社会貢献カード」の仕組みです。

一般の市民というよりNPO関係者の方々に利用いただく仕組みのカードですが、今は選択肢が増えていますから、このカードではないものを使われている団体の方も多いのではないかと思います。そうした方もぜひこのカードを使っていただき、NPOを応援していただくと良いのではないのでしょうか。NPOカードの拠金は、これまでサポート資源提供システムの運用資金の一部として活用いただいていた。微々たるものですが、今後も新しいNPOを育てるとか、地域で活動するNPO支援にお役に立てれば嬉しいです。

### ■クレジットカード事業以外には

**せみ:** NPOカードについてはあまり知られていないのが実態かもしれません。私たちも頑張らねばなりませんね。さてクレジットカード事業が主な経済事業の中心とのことでしたが、他の事業についても少し教えていただけますか。

**斎藤:** カーリース事業や移動体通信事業を行っています。カーリース事業は法人企業だけではなく日専連カード会員、加盟店様、NPO法人の方々にもご利用いただき好評です。目的や予算に合わせて、商用車から一般乗用車まで、国産メーカー・全車種からお選びいただけます。特に税金+車検+フルメンテナンス(整備・タイヤ交換等)、全てコミコミのコースが人気ですね。タイヤ購入や車検整備費等の維持管理費や、車両購入費用の調達が必要で資金面の負担が軽減されます。

また経済事業ではないのですが、カード会員向けに情報紙「クレソンプラージュ」を発行しています。日専連カードが使える加盟店を中心に掲載しています。商品等を購入する際に使えるクーポン券を掲載することにより、お客様をお店に送客する事を目的とした情報紙です。

### ■今後の目標

**せみ:** これまでのお話からも分かりますが、日専連さんは、まちづくり、地域づくりにもご尽力されていらっしゃる。地域活性化と言われた時に、どのようなまちの姿が好ましいとお考えでしょうか。

**斎藤:** 協同組合の精神がありますので、地元の方々のお店が繁盛してもらいたいと思っています。普通のカード会社であれば、大型店に代表される全国的な企業が仙台に進出してこられる方が、カードの売上が伸びるので喜ばれるかもしれません。私どもはそれだけではなく、地元企業が繁盛することを願って活動しています。



皆さんには東京本社の店だけではなく、意識して地域に根ざした商店でも買い物をしていただきたいですね。例えば、赤ちゃんが生まれたり全国展開の店も便利で良いですけど、そこばかりではなく、地元の商店でも買っていただくことで地域の商店が潤い、地元が活性化します。このNPOカードの仕組みも、もし中央資本のカード会社が全国的なNPOと組んで行うことになったとしたらNPOへの拠金はできると思います。そのカード会社の社員は本社のある地域で買い物をするでしょうから、私たちの地元が潤うことにはつながりにくい。

**せみ:** 先日発表されたとある提言では、施設や人材面において、高齢者の介護・医療の受け入れ体制が整っている41の地域が示されました。賛否両論あったようですが、高齢者の暮らしやすい市町はどこであると(またその逆も)示されたものでした。これからは、A市は手厚い支援体制が敷かれているけれど、B市ではそうでもない等、地域格差が広がるのではないかとされています。そうしたことをふまえた時、私たち一人ひとりが地域を支えているんだという認識を持つことは、とても大事なことだと思います。使えば使うほど地域のためになるカードがあるということ、より多くの人に知っていただければ嬉しいです。

**斎藤:** 先週末は「プレミアム商品券」販売のお手伝いに商店街でボランティアをしてきましたが、私どもは地域に貢献していかないといけないと日頃から思っています。全国を盛り上げるにも、まずは足元の地域からです。私どもの事業の目的も、そのように地域生活、地域の方々の生活を豊かにすることにあります。

<お問い合わせ先>

クレジットカードについて 022-267-9211

(クレジットカード営業グループ)

カーリースについて 022-267-9211 (法人営業グループ)

(記録・編集 遊佐さゆり)



## 宮城県NPO等組織基盤強化・ネットワーク促進支援事業

東日本大震災や人口減少などをはじめとする状況の変化により、私たちを取り巻く社会課題はますます複雑化しています。それに伴いNPOに求められる役割も多様をきわめ、課題に対する柔軟な対応力が求められるようになってきました。こうした状況下、あらためてNPOの現状を見てみると、どうしても目の前の事業に注力してしまうことによって、なかなか組織基盤を整えることができず、また他組織とも十分な信頼関係を構築できないというケースが少なくありません。これらについては、当センターが掲げる「市民セクターの基盤形成」、「セクター間の連携」という2つのドメインにも密接に関係しており、いま私たちが取り組むべき重要な課題だととらえています。

そこでこれらへの支援策として、この秋より、「宮城県NPO等組織基盤強化・ネットワーク促進支援事業」(震災復興担い手NPO等支援事業)を実施させて頂くこととなりました。この事業は3つの柱を中心に設計しており、その1つ目はNPOの基盤強化支援を行うセミナー・ワークショップです。2つ目は、復興を担うNPO・行政・企業等を対象としたラウンドテーブル・交流会。ここでは、日常的に関わることの少ない異セクター同士が地域課題について深く語り合うことで、その解決へ向けた連携の芽づくりを行って頂きます。そして3つ目が、NPO等および自治体の復興担当部局を対象にしたネットワークに関する意識調査です。

この3本柱を通して、NPOが組織のガバナンス・マネジメントを見直し、中長期的な視点で内外から信頼される基盤づくりを強化するとともに、他組織と強固なネットワークを構築し、未来に向けた地域社会づくりを進めていける場を提供していきます。なお団体や組織のご要望に基づいて、これらのワークショップやラウンドテーブル開催後も当センターでフォローアップを行い、組織基盤形成やセクター間連携を支援させて頂く予定です。

まずは1つ目の柱、来たる10月8日(木)・9日(金)・21日(水)・22日(木)、気仙沼・石巻・亶理・仙台を会場としてマネジメントとガバナンスに関する『3年後の未来を創りだすセミナー&ワークショップ』を開催します。2つ目の柱であるラウンドテーブル・交流会は11月開催、そして年明けに調査を実施します。最新情報や詳細につきましては、当センターホームページに随時アップしていきますので、そちらでご確認ください。(桃生和成)

## 多賀城地方創生事業:市民が創るまちの文化創生事業

今年度、宮城県多賀城市における地方創生事業がスタートしました。その中で、当センターが実施主体となって運営しているのが、「市民が創るまちの文化創生事業」です。本事業を運営するにあたって、文字通り「市民が創る」とすべく、市民・行政・NPO・大学等に所属するメンバーからなる「多賀城盛り上げ会議」を立ち上げました。事業の大枠が決まっている中で、地元に必要なものとして創造していくかという検討を続けています。ご興味のある方は、フェイスブックページを開設しているので、そちらをご覧ください。

さて、その「多賀城盛り上げ会議」が主体となって運営しているのが、毎月ゲストを招いて開催する「コミュニティカフェ」です。地元の大学生を中心に、多賀城に関心のある多くの市民に参加していただいています。第1回は6月11日(木)、「多賀城盛り上げ会議」を開催しました。ここでは約2時間のワークショップで、「この機会に盛り上げるにはこれ!アイデア出しワークショップ」というテーマでディスカッションを行いました。参加者からは、「多賀城の政庁跡の風景を活かしたい」、「隣の視点から多賀城をみつめ直してみたら?」など、多くのアイデアが出ました。

第1回のディスカッションの意見をもとに、7月9日(木)に開催した第2回では、ゲストに多賀城市に隣接する塩竈市においてギャラリースペースを運営する高田彩さんをゲストに、「隣のまちから見える多賀城の風景」をテーマにトークが繰り広げられました。

そして第3回は、8月20日(木)の開催でした。塩竈市を中心に、アートの視点からのまちづくりを行っている「つながる湾プロジェクト」の事務局、谷津智里さんをゲストにお迎えして、「多賀城の原風景を新たな視点でとらえる」というテーマでのワークショップです。

このように、市民文化をアート・デザインの視点から創り上げていこう、というコンセプトで、若者の感性に符号する、心地いい市民活動が広がっています。



(高橋結・桃生和成・佐々木秀之)

## 今年度の「住友商事インターンシッププログラム」が始まりました！



「住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム-インターンシップ奨励プログラム-」の2015年度入校式が、6月28日(日)仙台市市民活動サポートセンターにて開催されました。本プログラムは東日本大震災の翌年2012年に宮城で始まり、その翌年に福島、翌々年に岩手が加わり、昨年より被災3県で実施、これまで合

計44名が修了しました。

4年目にあたる今年度の受入団体数は、宮城が5、福島と岩手がそれぞれ4で、インターン数は宮城、岩手がそれぞれ5名、福島が6名となっています。入校式は3県のインターンや関係者が顔をそろえ、抱負を語ったり交流を深めたりしました。また当日参加した過去3年の修了生から、新インターンへエールが送られました。「決して楽しいことばかりではなく、長期間ならではの苦しさや後悔もあったが、それを乗り越えたからこそ得たものは大きい」というメッセージで、彼らの成長も感じることができました。

受入れ団体がプログラムの目的である「人材育成」の視点を持ち続けながらインターンと関わるからこそ、大きな成長を見ることが出来ます。今年度のインターンにも、この貴重な経験を大切に9ヶ月間多くのチャレンジをして欲しいと思います。

(今野くに江)

## 「カルビーニコニコ子ども基金2015」

本基金は、東日本大震災発生翌年の、当センターが運営しているNPOへの資金提供プログラムである「地域貢献サポートファンドみんな」に、カルビー株式会社様からの寄付により設置しました。これまで、震災の被害を受けた石巻地域の子供達を支援する15団体へ3年間助成をしてきました。

本年度、助成決定を行った2団体をご紹介します。「一般社団法人BIG UP石巻」は、被災地の街に彩と活力を増やす活動をしています。今年度は石巻市内のコミュニティスペースで子供達の遊び場の提供と遊び方の提案をしていきます。「NPO法人にじいろクレヨン」は、全国の方に被災地を忘れないでもらうために、石巻地域の子供達と全国の支援者の方を絵本でつなぐプロジェクトを行います。

震災から4年、被災地のニーズも変化しています。今のニーズに対応するため活動を始めた団体を支援する「団体の立ち上がり期応援コース」を今年度は設定しました。このコースでの助成団体は「未来の希望プロジェクト奥松島」です。東松島市と石巻市にて芸術祭を開催することで、震災の風化に伴い被災地で減少している交流人口を増やし、子供達を元気づける取り組みです。この団体ははじめて本格的な事業に取り組む任意団体なので、基金の運営と合わせ団体運営のサポートも行っていく予定です。今回の3団体の助成事業により、石巻地域の子供達の笑顔がさらに増えるよう、当センターもさまざまな形で応援し続けていきます。

(今野くに江)

## 「みやぎ連携復興センター、法人化のご報告」

前号の「NLみんな」でもお伝えしておりましたが、当センターが復興部門の事務局を担っていたみやぎ連携復興センターについては、2015年7月1日付をもって一般社団法人みやぎ連携復興センターとして法人化を致しました。

これまで当センターの復興に取り組むいち事業として、宮城県域をはじめ岩手県・福島県とも連携を図り、被災地の復興に向けて地域の団体と情報交換や支援策を検討し、自治体を含めた形で様々な取り組みを行ってきました。

震災から4年半が経過した現在は、被災地の局面も変化し、その状況に合わせてこれからの被災地で活動する方々をサポート

することから、宮城を含めた3県の復興を目指すものとして組織を独立させることと致しました。

新法人となった連携復興センターは、復興をテーマとした様々な組織とともに新たな基盤をつくることを目標としています。一方、当センターは幅広い市民活動団体のサポートから新たな市民社会を目指すといったように、それぞれのミッションの明確化と組織の特色と動き方を活かした連携を行うことで、互いに自立した関係性を作っていきたいと考えています。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

(伊藤浩子)

# 実施事業の紹介

## 仙台市市民活動サポートセンター

## ■市民ライター講座2015

6月19日(金)、26日(金)、7月3日(金)、10日(金)の4回連続で、「市民ライター講座2015～取材・執筆体験で磨く情報発信力」を行いました。5～6月に続き2回目の開催です。講座では、執筆や取材のノウハウを学ぶとともに、6月27日～30日の間の1日を選び現場で取材体験をする機会を用意しました。14人の参加者は5つの班に分かれ、東日本大震災の教訓を生かし防災・減災につなげる活動をしている市民活動団体を取材しました。「分かる」ように記事にまとめることには苦労しましたが、市民が行う自主的な活動に触れ、活動する人々の思いをより多くの人に「伝えたい」という意欲も生まれました。受講者が執筆した記事は、河北新報オンラインコミュニティーで公開しています。ぜひ、ご覧ください。

詳しくはこちら↓

仙台サポセン ブログ

検索

(仙台市市民活動サポートセンター 葛西淳子)

## 多賀城市市民活動サポートセンター

## ■参加者の想いが地域の未来を描く!

0.8%。これは多賀城市の人口に対する NPO 法人の割合 (2015 年 5 月現在) です。隣接する市町の仙台 3.9%、塩竈 2.9%、七ヶ浜 1.5%、利府 2.2% などと比べても低い数字です。NPO 法人の数が市民活動の盛衰に比例する訳ではないですが、多賀城市の市民活動には相当の伸びしろがあるとも言えます。この状況を『まちの未来を自由に描けるまち』と位置付け、「何かしたい」という想いや考えを形にしていく講座“TAGAJO Future Labo”を実施しています。本講座は、ワークショップや参加者同士のディスカッションのほか、エクスカージョン (体験型見学) 等を連続 5 回開催します。ゴールは 2016 年 1 月です。そのスタートを切る第 1 回目を 7 月 25 日 (土) に行いました。参加者は、自分の「やりたい事」を探している方、特技を活かしたい方、自身の経験を事業にと考えている方など、様々な想いが集まり、まるで実験室のように「何か」が生まれる予感がします。今後も続く“TAGAJO Future Labo”にご期待ください。

詳しくはこちら↓

たがさぼPress

検索

(多賀城市市民活動サポートセンター 武内 基)

## K-PROJECT (加藤哲夫氏資料アーカイブ&市民活動ハンズオン支援プロジェクト) 報告書ができました

### 「蝸牛評伝」発行: せんだい・みやぎNPOセンター K-PROJECT編集委員会

当センター創設者である加藤哲夫氏の残した資料の活用を目的に、2014年に「K-PROJECT」を立ち上げました。『蝸牛評伝』はこのプロジェクトの一環として作成され、加藤氏のプロフィールや著書の紹介、東北で活躍するゆかりの5人のインタビューから、加藤氏との出会いが今の活動にどのような影響を与えているかを知ることができます。

冊子からは一貫して伝わってくる加藤氏の姿勢を見ることができました。それを感じる文章の一部をご紹介します。「お客さんを喜ばせてあげなさい。それが、信頼につながるからね」P8、「おかみ(行政)が決めたから従っていうのではない。その場で人と人が向き合って対話してこそ、世の中は育まれるし、その先に文化が生まれる」P16、「ことばはその人の中からその人の力で出てこ

ければ、力にならない」P32などです。

これらの言葉から、加藤氏の、対話を大切にし目の前の課題と対峙してきたであろう姿

を想像することができます。そして、セクターを超えいち市民として他者を見ていくこと、想いを発信することの大事さを学ぶことができます。

写真の左側は、加藤氏の残した資料をデジタルアーカイブし公開したWEBサイト「K-MUSEUM」(<http://www.minmin.org/kto/>)の目録です。どうぞご覧ください。(今野くに江)



**大橋 年男**  
勤務地: 仙台市市民活動サポートセンター  
はじめまして。大橋年男と申します。新たな歩みをこの仙台サポセンで始めることになり、希望と不安と入り混じった心境です。市民活動に関しては、勉強不足のところはありますが、少しずつ学びを深めていき、少しでも皆様のお手伝いができるよう努力したいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**高橋 結**  
勤務地: 本部事務局  
2010年のインターンシップ(宮城大学)において、フラスコおおまちの設立に携わって以降、ソーシャルビジネス事業・まちづくり協議会調査事業(れんぷく)といった活動に参加してきました。3月に大学院を修了し、プロジェクト職員として本年度から大町本部に所属となり、東北6県NPO調査事業を担当しております。よろしくお願ひいたします。

**本田 貴子**  
勤務地: 本部事務局  
今年の5月より非常勤職員をしています本田貴子と申します。東北大学教育学部4年生です。仙台サポセンでのイベントに参加し、それぞれの志で活動している個人・組織が互いに高め合う機会づくり、多様なセクターをつなぎ地域づくりを活性化するお手伝いをしたいと思ったことがきっかけです。日々たくさんの学びをいただいています。どうぞよろしくお願ひいたします。

新スタッフ紹介



活動やニーズ、「志」でつながろう。

# ライブラリ



毎号「みやぎNPO情報ライブラリー※」登録団体の中から、ひとつをご紹介します。

※NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりして、地域の市民・企業など社会一般に広く公開・発信する情報発信支援事業です。

今回は

特定非営利活動法人

## イコールネット仙台

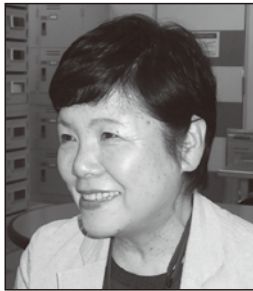
<http://fields.canpan.info/organization/detail/1416895108>

代表理事 宗片恵美子さんにお話を伺いました。

### 活動内容

私たちは2003年の団体設立以後12年の活動を通じて、生活のどの場面にも男女共同参画の視点が必要であることを伝え続けてきました。

メディアや健康など生活に身近なテーマで講演会やセミナーを開催したり、調査・研究、ワークショップ、男女の役割の逆転劇にシナリオから関わるジェンダー視点の人材育成など、一人ひとりの胸に落ちる男女共同参画を伝え、本当の意味での意識の変化を起こすため、様々な手法を用いて活動をしています。



イコールネット仙台  
代表理事 宗片恵美子さん

### 現在の活動での、注目ポイント

#### ■防災を通じて目に見える形で男女共同参画を伝えていく。

2008年、仙台市内の多様な暮らし方をしている1100人の女性たちを対象に、「災害時における女性のニーズ調査」を実施し提言活動を行っていました。この調査結果があったおかげで、2013年の東日本大震災発生時に女性の支援をする際、すぐに避難所に入ることができました。

DV被害の家族の介護など平日頃からある女性の困難を、避難所や仮設住宅などで多く見ることになりました。また、平常時にDVをしていた人が避難所という人の目があるところではしなくなったのに、仮設住宅に移り家族だけの空間になると、またDVを行うということも起きました。

そこで、避難所や仮設住宅で女性たちが置かれた状況も伝えながら防災を通じて男女共同参画の重要性を伝えていくことにしました。

#### ■意思決定の場に女性を登場させていく。

日本社会では男性のリーダーが多く、女性のリーダーが少ない現状があります。避難所でも同様のことが起きます。そうすると男性が女性特有の問題に気付かなかつたり、女性自身も声をあげづらくなつたりし、結果、様々な問題が生じてしまうのです。

そこで女性の声を届ける女性のリーダーを増やす必要があると思い、「女性のためのリーダー養成講座」を2013年から開催し、3年間で約100名の受講生が参加しました。この講座は、終了後に地域の中で活動をするを前提とした講座で、1期生の中にはすでに自分の暮らす地域で活動を始め、地域の防災意識を高めようと「防災宣言」を作った人もいます。また、受講生同士のネットワークを作り情報交換をするなど、

私たちの希望、期待に沿う人材が育ってきている実感があります。災害時は平常時より、女性や児童などに対する暴力が多く発生したり、高齢者や障害のある人たち、ひとり親家庭などが抱える問題が深刻化しました。受講生には、そのような状況に女性ならではの視点で対応し、支援できる力をつけて欲しいと思っています。また、女性は子ども、高齢者、障がい者など弱者の代弁者になることができます。多様な人たちの声を届けるためにも、女性たちが意思決定の場に参画できる道筋や環境を作っていきたいと思います。

避難所では、男性リーダーが被災者のために力を尽くして疲弊していました。女性がリーダーになることで、男性の負担も軽減すると思います。このことは災害時に関わらず、私たちの生活すべてを通じて言えることです。

### 読者のみなさんへのメッセージ

男女共同参画は男性の問題も女性の問題も取り扱うべきですが、女性の問題はより深刻で多くあります。この山積する女性の問題を解決することは、男性にとっても生きやすい社会を作り出すことにつながります。

男女共同参画の基本のネックは性別役割分業です。女性は、家事、育児、地域活動などの役割を一人で担っている場合が多く見られます。しかも非正規雇用が多いです。一方、男性は精神面では男らしさを、家族を養うためには経済力を求められるなどして、家庭の時間を多く持てなかったり、介護や地域活動に参加できないなどの問題が生じてきます。男女ともに仕事・家庭・地域にかかわり、経済的にも精神的にも経済的にもお互いに支え合うことで人間らしい生活が出来るものと思います。

男女共同参画の問題を解決することは、最終的には多様な人権が認められる社会を実現することです。社会環境や教育の影響から男女共同参画を伝えることは簡単ではありませんが、一人ひとりの生き方が尊重される生きやすい社会になるよう活動していきたいです。

お問い合わせは

特定非営利活動法人

イコールネット仙台

TEL & FAX: 022-234-3066

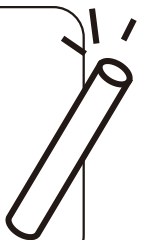
Mail: emuna@ve.cat-v.ne.jp

次号の団体は

イコールネット仙台代表理事 宗片さんよりご紹介

特定非営利活動法人仙台夜まわりグループ

路上生活者や生活困窮者の支援をするため、夜まわり、炊き出し、セミナー、ゆつくり過ごす会、ブックイシュー販売支援など幅広い活動のほか、行政との定例の懇談会を行い支援施策の討議や提言などを行っています。



# サポート・ご協力 ありがとうございます

## ■平成25・26・27年度会員 (敬称略・順不同、2015年6月6日～7月31日)

(正会員) 佐藤多間、藤原範輔、新川達郎、紅邑晶子、沼倉雅枝、(特)せんだい杜の子ども劇場、MIYAGI子どもネットワーク、八木充幸、(特)宮城県断酒会、(特)FOR YOUにここにこの家、佐藤わか子、鈴木美紀、太田貴  
(準会員) (特)白石うぐいす会、和田京子、(特)ネットワークオレンジ、Anego、上野和弘

## ■企業・団体協力 (敬称略)

富士ゼロックス宮城(株) (カラーコピー機を社会貢献価格にて)

### せんだい・みやぎNPOセンター 通常総会開催

日時:2015年9月6日(日)13:30～

場所:仙台市市民活動サポートセンター  
6Fセミナーホール

Q:総会は誰でも傍聴できますか?

A:できます。しかし、正会員でなければ議決権はありません。この機会にぜひ入会をご検討ください!

### みんなpresents

### まち・むすび助成金 第2期 公募します

みんなファンドを活用した小口助成事業、「みんなpresents まち・むすび助成金」の第2期募集を行います。宮城県内で地域課題の解決のために活動しているNPO、町内会、サークル等が複数団体で実施する協働事業に対し、上限10万円の助成を行います。応募期間は9月1日～10月31日です。詳しくは同封のチラシ及びHPをご覧ください。

### 「3年後の未来を創り出す セミナー＆ワークショップ」開催

震災や社会状況の変化により、顕在化・複雑化した社会課題に対して柔軟な対応力が求められる昨今には、少し先の未来を見据えた広い視野を持つことが大切です。

NPOのマネジメントとガバナンス(経営管理と合意形成・意思決定のシステム)について改めて学ぶ機会、「中長期計画策定ワークショップ」を実施します。

日程:10月8日(木)・9日(金)・21日(水)・22日(木)

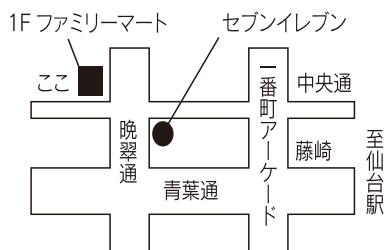
場所:気仙沼・石巻・亘理・仙台

### 連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 7F  
TEL : 022-264-1281 FAX : 022-264-1209  
E-mail : minmin@minmin.org HP : http://www.minmin.org/

### 発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一  
新川達郎  
紅邑晶子  
編集部: 小川真美 遊佐さゆり  
田口博徳  
発行日: 2015年9月1日  
デザイン: 氏家朗



岡元ビル 7F 仙台駅から徒歩 20～25分

### 編 | 集 | 後 | 記 |

私たち人間は、見たいものを見、聞きたいように聞き、信じたいものを信じ、そして解釈したいように解釈する、そんな生き物である。だから、Aという事象を(都合の)よいこととしてとらえる人もいれば、まったく別に考える人もいる。

さて混乱の種となるのは、Aが本当のことであるのか、その実際は何か、などということは脇に置いておかれることが少なくなく、もしかするとかなりの偽り事や、特定の人に作為的に作られた事で構成された事象が独り歩きし始めることである。独り歩きした事象が、さらに見たいように、聞きたいように、解釈したいようにと転化され、終いにはこの本質はどこかに吹き飛んできれいさっぱりと無くなってしまふ。(もしくは別物になってしまう。)

自我を鎮め、見たくない、聞きたくない、理解したくないものに真摯に向き合う。この虚像を追うのではなく、真髄を見てとれる真の強さと賢明さを忘れずにいたい。  
(OGAWA M)